



白い帆を広げた海王丸（中央）を見ようと大勢の家族連れらが訪れた海王丸パーク。広大な富山新港に新湊大橋（奥）が架かる。射水市海王町

**I<sup>アイラブ</sup>富山湾**

**立山の眺め最高**  
海王丸パーク内の和食レストラン「旬彩あいの風」経営の齋藤武志さん（81）海王丸パークから

見える立山連峰は最高。新湊の魚を全国の人に知ってもらいたいと、パークのオープン時から店を営んでいる。新鮮な地元産にこだわった、白海老（しろえび）ご飯や刺身定食などをこれからも提供し続けた



パーク内にある「恋人の聖地」のモニュメント。夜の海王丸や新湊大橋のロマンチックな雰囲気にかけてカップルが訪れる

毎日第4日曜日に掲載します。次回は10月26日

## 海王丸パーク 射水市 海洋文化伝える「貴婦人」

同パークでは、総帆展帆のほか夏の花火大会や各種イベント、夜のイルミネーションなどが行われる。富山湾の「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟を記念したモニュメントがあり、全国各地にある「恋人の聖地」の一つでもある。2012年に新湊大橋が開通し、年間約100万人が訪れる富山湾最大の観光スポットとなり、海洋文化と触れ合う機会を提供している。宮越さんは「海王丸の帆を広げ、みなさんに喜んでもらえるのは励みになる。100年後も海に浮かんでいられる船であるように、協力していきたい」と話した。（写真部部长アスク・垣地信治）

広大な富山新港に白い船体の帆船海王丸が浮かぶ。秋晴れの下、すべての帆を広げる総帆展帆が行われ、「海の貴婦人」と呼ぶにふさわしい優美な姿を現した。係留されている海王丸パークでは、大勢の家族連れらが日本海側最大級の斜張橋・新湊大橋をバックにした景色を楽しんでいた。

海王丸は1930年に完成した練習帆船で、89年の現役引退に伴い、富山県と大阪市が誘致合戦をした結果、交互に展示されることになった。90年に現在の係留地から1.5ほど南西方向のふ頭に仮係留され、92年に同パークが完成し本格展示が始まった。その後、富山県と大阪市の間で調整が行われ、富山県で恒久的に係留されている。

海王丸の帆は普段は畳まれているが、総帆展帆はボランティアの手で毎年10回行われる。ボランティア1期生として90年から参加している宮越謙三さん（78）は「富山市山室荒屋」は「最初は誰も経験がなく、3カ月ほど研修を受けた。高い所は怖く、手順を覚えるのも大変でした」と振り返る。

